

35 (わが身にふりかかった) この苛酷な災いを、どうして避けたらいいのだろうか(避けることはもはや無理である)。

36 しかし(謀反の罪を着せられた私の) 悪い評判だけは、何としても晴らしたい。

37 いまだかつて、邪は正に勝つたためしはないというが、

38 ことによっては(今の私のように) 誠心誠意で行ってきたことも、すべて謀略とみなされてしまう。

39 人気のない寂しいひっそりとした官舎に移り、

40 朽ち果てた粗末な建物(住居)の修理をする。

【五段】

41 (官舎の周囲は人気も無く) 荒れはてて、官舎に至る道も迷って見失うありさまだし、

42 (官舎の)敷地は、一畝半に少し足りないくらいの狭さだ。

43 井戸はふさがっていたので、(そのふさいでいる) 砂を掘り出して盛り上げ、(改めて) 甃(いしだた) みし
なおして使えるようにし、

44 まがきは破れてまばらになっていたので、竹を割って編み直した。

45 (うち捨てられた畑には) 冬葵の古い根が一畝残り、

46 まだらに蘚(こけ)の生えたこぶし大の石が、一つころがっていた。

47 (官舎の) この有様は、長く空き家だったころのまま(殺伐とし)、

48 私が住むようになって、(官舎の、この殺伐とした風景は) 変わることはなかった。

49 時折、たまらなくやりきれなくなることもあるが、